

改めて「つくる視点」と「使う視点」を考える

美術教育講座・原田 義明

1. 授業の概要及び目的

本授業は、学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コース2回生を対象にした合同授業である。今年度の履修学生数は25名（美術教育専修2回生2名、3回生1名、造形芸術コース2回生9名、3回生8名、4回生4名、教育学研究科美術1名）である。このうち、継続して履修したのは、21名。

本授業では、やきものの二大成形法の1つである“手びねり成形法”の基本的な技法の習得を目指し、「器」の制作を通して、「用と美」「機能と造形」を理解し、先史時代の昔から人間の生活に密接に結びついているやきものについて理解することが目的である。

〈到達目標〉

（1）やきものを構成する二大要素である土と釉薬について基礎的な事柄について理解し、手びねり成形の技法について説明できる。

（2）与えられた課題の内容を理解し、作品制作に生かすことができる。

（3）土と釉薬及び手びねり成形の特性を的確に捉え、各自の制作意図に従って、作品化できる。

2. 授業の内容

この授業では、重複履修や再履修の学生を含め、約半数の学生が陶芸制作は初心者であることを踏まえ、課題設定→デザインスケッチ→土練り→粘土成形→乾燥→素焼き→施釉→本焼き、の一連の作業工程を全体、個人指導を組み合せながら、受講生の進度や習熟度を考慮する中で授業を展開した。課題においては、「器」を授業全体の統一テーマとして、最終的に「使う」ことを強く意識した課題設定を行った。具体的には、課題Ⅰは、カップとソーサーを制作し、課題Ⅱでは、花器を制作した。両課題とも合評会前に「茶話会」「いけばな実習」を開催し、それを基にワークシートの作成と合評会での発表を実施した。

3. 改めて「つくる視点」と「使う視点」を考える。

ここ数年、工芸の多くの授業で、「つくる視点」だけでなく「使う視点」を学生により意識させる課題内容を設定して授業を進めてきた。結果、2年前の当該授業でのアンケートでは、約7割の学生が「つくる視点」だけでなく「使う視点」を意識するようになったと回答し、多くの学生の中に「使う視点」を意識した制作が定着してきたと感じている。本授業では、これまでの授業内容を再考し、改めて学生に「つくる視点」と「使う視点」をより強く意識させる授業展開を試みた。

4. 授業改善のためのアンケート

授業最終日にアンケート調査を実施した。アンケートの冒頭でディプロマ・ポリシー（以下DP）に関する項目を設定し、①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとして4段階評価を行った。

DP以外の質問項目に関しては、問13までは5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお、問10、13の回答は、①はい②いいえで答えることとし、問14～16は記述式とした。回答者19名

5. アンケート結果

【教育学部DPに関する質問項目】

この授業では、シラバスで重点項目をDP1にしていることから、今回はDP1のみを抽出する。

DP1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。

（知識・理解）

②1名 ③6名 ④12名

【授業の内容に関する質問】

1. 授業のテーマ・目標は授業展開の中で明確でしたか。

④3名 ⑤16名

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

④4名 ⑤15名

3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

④2名 ⑤17名

【授業方法に関する質問】

4. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

④3名 ⑤16名

5. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

④3名 ⑤16名

6. 制作中のアドバイスは適切でしたか。

④2名 ⑤17名

7. この授業では、教材や資料が工夫されましたか。

④2名 ⑤17名

8. この授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

③1名 ⑤18名

【受講生自身に関する質問】

9. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

③1名 ④4名 ⑤14名

10. あなたはこの授業に関する授業時間外学習を行いましたか。

①9名 ②8名

11. 10. で「はい」と答えた人のみ、お答えください。時間外学習の具体的な内容について以下から選んでください。(複数回答可)

①制作 8名 ②資料収集 8名 ③展覧会等での作品鑑賞 3名 市場調査 1名

【授業全体に関する質問】

12. この授業は、制作の過程で思考が深められ、意図した表現が達成できるような課題設定と授業展開でしたか。

①1名 ④4名 ⑤13名 無回答1名

13. この授業の課題を通して、制作者としての「つくる視点」だけでなく、使用者としての「使う視点」を意識するようになりましたか。①18名 無回答1名

14. 13. で「はい」と答えた人のみお聞きします。具体的にはどのような場面(過程)で「使う視点」を意識しましたか。以下、14～16は※誤字・脱字を除き原文のまま転記。

○実際に制作したカップや花器を授業内で使用したことから使う視点を意識した。

○持ってみた時や実際に使ってみた時。2名

○生け花実習。花をいけた時。3名

○いけばな実習をしたとき。デザインスケッチのとき。

○デザインを考える際。

○その人の生活になじむかどうか、大切だと思った。

○実際に花を生けてみて、自分の作品の改善点を見つけたこと。

○マグカップ、花器を実際に使用した時。

○普段の生活や、お店などで見た作品や食器など。

○例えばカップでは、取っ手や飲み口など使いやすいように成形時に工夫した。

○自身の制作器を使い、その成果と課題を知ることができた。

○どんな形にするか考えている時。作っている時。

○アイデアスケッチをする段階。

15. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○デザインを考える力がついた。割れない技術をみにつけたい。(自身にとっての良かった点、改善点?)

○制作が終わった後の残り時間の活用法。

16. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○学生数に対して少し教室がせまいように感じました。2名

6. 地域社会をフィールドとした学生教育

今年度、一部少人数の授業において、地元美術館(三浦美術館)と連携し、2つの展覧会で、作品鑑賞及び作家との交流(作家との交流は日程の関係で4月実施予定)を企画し、学生教育に取り組んだ。

7. 総括

経験者と初心者が混在する中、各課題の導入で、「使うこと」を最終ゴールとした課題設定や意図について、より丁寧に説明を行った。また、制作では、特にデザインスケッチの指導に時間を割いた。授業アンケート12.13の結果から、「つくる視点」に関しては、約9割が制作の過程で思考が深まったと回答し、さらに、ほぼ全員から「使う視点」を意識するようになったとの回答を得た。このことから「つくる視点」と「使う視点」を意識した制作という当初の授業目的は、概ね達成したと考える。しかし、地域社会をフィールドとした学生教育については、一部の少人数での授業実施であり、今後の課題としたい。